

令和 2 年 度  
事 業 報 告



社会福祉法人

塩尻市社会福祉協議会

# 令和2年度事業報告概要

## I 法人改革

### 1 社会福祉法人としての公共性の確保

- (1) 社会福祉事業による公共性の高い経営を実施しました。
- (2) 事業や財務内容を公表し、説明責任を果たしました。
- (3) 事業所ごとに基本方針・目標及び重点施策・事業を策定しました。
- (4) 計画的に事業を展開するとともに、事業の効果測定やコスト把握等の事業評価を適切に行いました。

### 2 人材の確保・育成と組織づくり

- (1) 新規採用職員を確保し、職員研修の実施と人材育成を進めました。
- (2) 第3次発展強化計画に基づき、組織の基盤強化を進めました。
- (3) 介護職員初任者研修を開催し、介護職員の養成を図りました。
- (4) 働き方改革に関する全職員対象の説明会を開催し、職員の理解を深めました。

### 3 法人の基盤強化

- (1) 制度の変化に対応した事業経営を進めました。
- (2) 中長期計画（財政計画）に基づいた健全な財政運営を進めました。
- (3) 職員の給与、休暇等の待遇を見直し、就業規則及び関係規程等の一部改正を行い、「働き方改革」に取り組みました。

### 4 新型コロナウイルス感染防止対策

- (1) 国、県、市の新型コロナウイルス感染症に係る対応方針等の情報を適時・的確に把握し、変化する状況に応じて施設、利用者、職員等の感染防止対策を徹底することにより、安心・安全な福祉サービスの提供に努めました。
- (2) 各施設において、検温、手指消毒、マスクの着用、3密の回避等を徹底するとともに、新型コロナウイルス感染症対策長野県民手帳を全職員に配付・活用するなど、施設及び職員の感染症予防対策を徹底しました。
- (3) 「新型コロナウイルス感染症の発生に伴う社会福祉法人の運営に関する取扱いについて」（厚生労働省通知）に基づき、6月及び12月の理事会及び評議員会の開催を中止し、決議を省略しました（書面による同意）。
- (4) 新型コロナウイルス感染症塩尻市対策本部の対応方針に基づき、指定管理施設3館及び老人福祉センター田川の郷を休館とするとともに、行事等を延期又は中止し、感染症予防対策を徹底しました。

- (5) 新型コロナウイルス等対応マニュアルを策定し、感染が疑われる利用者等の利用についての対応方針を定めました。
- (6) 新型コロナウイルス感染症の影響を受けた世帯へ、生活福祉資金の特例貸付（緊急小口資金及び総合支援資金）を行いました。
- (7) 予防対策用の手袋、マスク、消毒液等を法人で一括購入し、備蓄しました。

## II 地域福祉

### 1 第5次地域福祉活動計画の推進

- (1) 地域福祉活動についての聞き取り調査を実施し、新型コロナウイルス感染予防を行う中で、地域福祉活動を続けるための提案と方法について記載した「新しい生活様式に対応した活動マニュアル」を策定し、関係者に配付しました。また、「新しい生活様式」に対応した地域福祉活動の相談支援に取り組みました。
- (2) 地域福祉活動に関する補助金制度を延長して、柔軟に対応しました。

### 2 生活支援

- (1) 生活就労支援センター「まいさぼ塩尻」において、自立相談支援事業に加え、家計改善支援事業を行いました。また、新型コロナウイルス感染症の影響により増加した、生活困窮者等の相談支援を進めました。
- (2) 新型コロナウイルス感染症による生活困窮者等への対策として創設された生活福祉資金の特例貸付制度の受付窓口として、感染症の影響を受けた世帯への緊急小口資金及び総合支援資金の貸し付けを行いました。
- (3) 成年後見支援センターにおいて、市民後見人フォローアップ研修を実施し、市民後見人の育成に取り組みました。

## III 介護サービス、障害福祉サービス

### 1 利用状況

- (1) 介護保険事業 延利用者 59,082人（前年度比 586人減 99.0%）
- (2) 障害福祉サービス事業 延利用者 28,784人  
（前年度比 1,060人増 103.8%）

### 2 情報共有

- (1) 法人内での情報共有のため、所属長による企画調整会議のほか、介護保険事業所連絡会、障害福祉サービス事業所連絡会及び地域福祉連絡会を開催しました。
- (2) 新たに設置した西部地域包括支援センターと連携し、利用者のニーズに沿った介護保険事業を推進しました。

### 3 自立支援・重度化防止

利用者の自立支援・重度化防止のため、全デイサービスセンターで個別機能訓練及び口腔機能向上訓練を実施しました。

### 4 障害者相談支援事業の受託

松本障害保健福祉圏域市村からの受託により、継続して障害者総合相談支援センター「ボイス」に相談員を派遣しました。

## IV 指定管理者事業等

### 1 塩尻市西部地域包括支援センター開設

新たに塩尻市から受託した塩尻市西部地域包括支援センターを、4月1日にデイサービスセンターすがのの郷内に開設し、介護・医療・保健・福祉などの包括的な総合相談、支援、啓発を行いました。

### 2 すがのの郷改修工事

塩尻市西部地域包括支援センターの開設に併せて、屋根塗装工事及び看板設置工事を行いました。

### 3 ふれあいセンター等の管理運営

- (1) 塩尻市から指定管理者として指定を受けている、ふれあいセンター広丘、ふれあいセンター洗馬、及びふれあいセンター東部の3館、並びにふれあいセンター洗馬に併設されている洗馬児童館について、継続して管理運営を実施しました。(ふれあいセンター広丘は、令和2年4月1日から5年間の指定管理者として令和元年度に塩尻市から再指定を受けています。)
- (2) 新型コロナウイルス感染症拡大防止のため、塩尻市対策本部の対応方針を受けて、ふれあいセンター洗馬、広丘、東部の3館及び老人福祉センター田川の郷を、4月17日から5月15日まで(29日間)休館しました。また、その後も感染防止対策を徹底しながら、地域福祉活動の拠点施設として、市民の活動を支援するとともにふれあい、交流の場を提供しました。

# 令和2年度の事業所事業報告

所属名  
(事業所名)

総務課

開所状況	開所日時	月曜日～金曜日 午前8時30分～午後5時15分	開所日数	243日
------	------	----------------------------	------	------

事業所目標	主な事業	実施状況	今後の方向性
市民に見える社協活動とするため広報を充実します。	広報啓発	第52回 塩尻市社会福祉大会中止 会長表彰については、表彰審査委員会開催。被表彰者を決定し、来年度開催予定の社会福祉大会で表彰する。  共同募金についての理解を深めていただくため、市内の小中高校に出向き、説明をした。(小学校8校 中学校4校 高校3校)	来年の社会福祉大会実施に向け、安全に参加していただけるよう、内容と対策の検討を行う。
		社協しおじりの発行 発行回数 4回 (8・12・2・4月) 発行部数 22,200部/回 パンフレットの配布 会費や共同募金依頼時、協力実績のある企業に、社会福祉協議会への理解を深めていただくために配布した。	社協の活動や地域福祉について、広く住民に知っていただくための手段として、SNSの導入やホームページの活用について検討し、それに基づき見直しをする。
人材育成を積極的に行い、組織基盤を強化します。	人材育成、組織づくり	職員キャリア別研修への参加(新任～管理者) 23人 新人職員研修の実施 6回 新人指導担当者会議 3回 中堅職員研修の実施 1回	層ごとの役割を明確にし、地域福祉の視点を持った人材の育成を目的に研修会を開催する。 新人指導担当制を定着させ、職員が成長できるようにする。
職員同士のつながりや働きやすい環境を整え、職員が輝いて働ける組織を作ります。	第3次発展・強化計画の推進	委員会開催 8回 2班に分かれ、「チーム対応力の向上」と「人材の強化を図る」ための検討をした。	第3次発展・強化計画を推進するため、具体的な取り組み内容を検討し、研修会等で周知する。
	職員健康管理	ストレスチェックの実施 実施者数 99人 高ストレス者 8人 高ストレスの者が、昨年度より3人減少した。 新型コロナウイルス感染症拡大防止対策の実施 非接触型体温計の購入、消毒液やマスク、手袋の備蓄を行った。また、長野県外往来届の提出により、状況の把握に努めた。	職員の健康管理に気を配り、早期に対応できるようにする。 新型コロナウイルス感染症の拡大状況に応じ、その都度対応をしていく。

会費実績

(単位:円)

年度	普通会員			特別会員		法人会員		合計
	世帯数	口数	金額	件数	金額	件数	金額	金額
令和2年度	15,696	15,585	7,796,510	19	70,000	33	112,000	7,978,510
平成31(令和元)年度	15,300	15,351	7,675,956	18	58,000	26	89,000	7,822,956
増減	396	234	120,554	1	15,000	7	23,000	158,554

共同募金実績

	個別	法人	学校、職域	街頭、イベント	個人大口	ハートフルベンダー	その他	合計
令和2年度	12,318,674	694,500	296,857	0	0	107,698	21,318	13,439,047
平成31(令和元)年度	12,382,030	697,459	262,499	11,940	0	70,655	21,518	13,446,101
増減	△63,356	△2,959	34,358	△11,940	0	37,043	△200	△7,054

寄付金実績

(単位:円)

年度	個人		団体		合計	
	件数	金額	件数	金額	件数	金額
令和2年度	11	909,167	85	4,053,972	96	4,963,139
平成31(令和元)年度	6	128,725	82	2,426,036	88	2,554,761
増減	5	780,442	3	1,627,936	8	2,408,378

職員数

(単位:人)

年度	令和2年度				平成31(令和元)年度			
	正規	准正規・嘱託	パート	合計	正規	准正規・嘱託	パート	合計
総務課	4	4	2	10	3	4	3	10
訪問ケアセンター	10	2	62	74	11	2	71	84
居宅介護支援事業所	4	1	5	10	4	1	5	10
すみれの丘	7	7	27	41	6	8	28	42
そよ風の家	3	1	8	12	3	1	6	10
みどりが丘	2	2	4	8	2	2	3	7
すがのの郷	5	4	29	38	4	2	25	31
田川の郷	4	1	22	27	4	1	22	27
みどりの郷	3	3	17	23	6	1	15	22
つくしの郷	3	1	21	25	4	0	19	23
地域福祉推進センター	7	1	4	12	7	1	2	10
ふれあいセンター洗馬	2	4	16	22	2	4	14	20
ふれあいセンター広丘	3	0	13	16	2	1	12	15
ふれあいセンター東部	3	0	12	15	3	0	11	14
合計	60	31	242	333	61	28	236	325

(単位:人)

令和3年3月31日現在

※総務課に常務理事・地域福祉専門幹、事務局長を含む。

※産休中の職員も含む。

	正規	准正規・嘱託	パート	合計
令和2年度	60	31	242	333
平成31(令和元)年度	61	28	236	325
増減	△1	3	6	8

# 令和2年度の事業所事業報告

所属名  
(事業所名)

地域福祉推進センター

利用状況	開所日時	月曜日～金曜日 午前8時30分～午後5時15分	開所日数	243日
------	------	----------------------------	------	------

事業所目標	主な事業	実施状況	今後の方向性
支部・分会対象の研修を行い、支部・分会活動を支援します。	支部・分会活動の支援	新型コロナウイルス下、会議の開催 ・参加が難しかったため、活動の目安としていただけるよう冊子を作成し配布するなどの対応を行った。	十分な感染対策・予防を行ったうえで、地域へ出向き、支部分会役員と情報共有し、地域課題の把握、検証、解決を図っていく。
地域の人とつながり、生きがいをづくりや介護予防に取り組みます。	ミニデイ等元気づくり広場の支援	・元気づくり広場等支援 47分会 168回 利用者数 3,358人 ※利用者数は前年度比で半減。 ・介護予防プログラム 4種 参加者数 682人	新しい生活様式を踏まえ、感染対策・予防を行いながら、地域のニーズにそったプログラム提供を行うとともに、地域での元気づくり広場のあり方、担い手について、地域の皆さんと検討していく。
関係機関と連携し経済的困窮状態の解消を図ることができるよう支援します。	資金の貸付	・県社協貸付 373件 ・市社協貸付 65件 ・貸付相談件数 853件 ※貸付件数が前年度比約3.8倍に増。	引き続き貸付相談者は多いと思われるため、迅速に相談対応していく。貸付を複数回行わないと生活ができない状況とならないよう、助言をするとともに、必要な情報提供を行う。
「生活困窮者の自立と尊厳の確保」、「生活困窮者支援を通じた地域づくり」に取り組みます。	課題把握・情報収集	・新規相談件数 430件 ・継続相談件数 1,213件 ※相談件数が前年度比約2.2倍に増。	相談者は複数の課題を抱えていることが多いため、抱え込まないよう他機関と連携し、課題解決を図っていく。
	家計改善支援事業	プラン作成者 0件	プラン作成には至らなかったが、お金の使い方が計画的でなく、生活を圧迫している家庭が多いことから、引き続き関与し自立できるよう支援していく。
福祉サービスの利用援助や金銭管理サービス、家計支援を通し、利用者が地域で安心して生活できるよう支援します。	日常生活自立支援事業(県社協受託)	利用件数 44件	ケース検討を定期的に行い、自立を目指した支援や、成年後見制度に移行、他の制度の利用を検討し、利用者の状況に応じたサービス提供を行う。
市民後見人養成講座受講生のフォローアップや法人後見支援員としての業務を通し、市民後見人の育成に取り組みます。	後見人の担い手の育成	・市民後見人フォローアップ研修受講者 6人 うち成年後見人候補者名簿登録者 2人	実際に経験を積んでもいただき、市内で市民後見人として活躍していただけるよう支援する。
ボランティアへの関心を高め、活動を後押しします。	災害ボランティア登録・育成	・災害時支え合い講座4回 45人 ※3カ所のふれあいセンターと共同して実施 ・災害救援ボランティア登録 838人	災害時に応援体制を築いていただけるよう、他機関と協定等を締結するなど、連携を深めていく。また、日ごろから有事の際の協力体制を検討する場を設ける。

事業所目標	主な事業	実施状況	今後の方向性
ボランティアへの関心を高め、活動を後押しします。	福祉学習	福祉学習活動支援 72回 ※新しい生活様式に対応したプログラムを提供し、支援回数が前年度比15件に増。	学校への福祉学習支援にとどまることなく、企業や地域で求めているプログラムを研究し、地域福祉の担い手育成につなげていく。
送迎サービスの周知を図り、担い手と利用者を増やします。	送迎ボランティアの育成	・利用会員 43人 ・協力会員 22人 ・利用件数 624件	送迎サービスのニーズは高いため、理解者・賛同者を増やし、担い手の育成を行っていく。

#### 福祉協力員数 (単位:人)

	福祉協力員
令和2年度	339
平成31(令和元)年度	337
増減	2

#### ボランティア活動者

	団体		個人
	団体数	人数	人数
令和2年度	106	1,651	66
平成31(令和元)年度	124	1,876	35
増減	△ 18	△ 225	31

#### 活動補助

	令和2年度		平成31(令和元)年度		増減	
	件数(件)	金額(円)	件数(件)	金額(円)	件数(件)	金額(円)
見守りネットワーク	66	2,344,000	66	2,311,200	0	32,800
ふれあい食事サービス	43	1,707,000	41	1,986,250	2	△ 279,250
ミニデイ等元気づくり	63	2,388,750	64	2,997,750	△1	△ 609,000
地域福祉活動振興事業	56	1,420,000	71	1,666,850	△15	△ 246,850
子育てサロン	12	240,000	11	220,000	1	20,000
縁側づくり	0	0	6	125,000	△6	△ 125,000
ボランティア活動保険補助	1,686	251,100	1,784	267,600	△ 98	△ 16,500
社会福祉普及校	16	480,000	16	480,000	0	0



# 令和2年度の事業所事業報告

所属名  
(事業所名)

ふれあいセンター洗馬

利用状況	開所日時	火曜日～日曜日 祝日の翌日、12/29～1/3除く 午前9時～午後7時	開所日数	273日 (29日間休館)
	登録者数	6,861人	延利用者数	14,117人(1日51.7人)

延利用人数	団体	個人	地区講座	介護予防	その他講座	計
令和2年度	824	11,924	667	471	231	14,117
平成31(令和元)年度	3,518	16,006	991	445	309	21,269
増減	△2,694	△4,082	△324	26	△78	△7,152

事業所目標	主な事業	実施状況	今後の方向性
市民の自主的な地域活動を支援します。	西部圏域の地域福祉活動の推進	社協支部、分会等との連携 子育てサロン支援 5回 117人	地域福祉活動の拠点施設として支援できる内容を提示し、職員が地域に出向き、地域に点在している担い手や社会資源をつなぐ役割を担う。
		講座の開催 ふれあい講座 6回 76人 心も身体もリフレッシュ講座 1回 10人 ボランティア講座 2回 31人 災害時支え合い講座 1回 20人 シトラスリボンミニ講座 1回 3人 クリスマス飾りを作ろう 1回 15人 自主グループ活動育成支援 1グループ	ニーズをとらえた企画、支援に努め、習得したことが講座終了後地域活動等に生かすことができるよう支援していく。自主グループとして活動が継続できるよう、情報提供や必要な支援を行う。
		福祉学習の推進 西部圏域 西部中学校 2回 180人 洗馬児童館 2回 49人 他の圏域 桔梗小学校 2回 75人 片丘小学校 1回 30人	圏域内の未実施4校に対し、実施できるように働きかけを行う。企画を提案するだけでなく、福祉学習についてイメージしやすいように他校の取り組み例も紹介していく。何を伝えたいのか目的を明確にし、行動につながる内容を検討したい。
	西部圏域地域福祉ネットワークづくり	地域福祉活動の現状について分会への聞き取り 5分会 民協地区会への参加 洗馬地区 2回 24人 宗賀地区 2回 30人 檜川地区 2回 24人 宗賀地区区長会 1回 9人 床尾分会 1回 7人	民生児童委員等の会議に参加し、地域の状況を把握し課題共有、解決に向けた支援を行う。総合相談窓口としての機能を地域に根付かせる。

事業所目標	主な事業	実施状況	今後の方向性
市民の自主的な地域活動を支援します。	有償福祉サービス事業の実施	西部圏域 サービスの提供 23回 活動 23.5時間 新規相談 5/件	担い手を増やす取り組みと併せてサービスを必要とする人に情報が届くよう地域の会議や包括支援センター等を通じて事業の内容を具体的に伝えていく。
	洗馬お元気食堂の開催	ボランティア会議 1回 7人 洗馬お元気食堂 3回 62人 ※計画は6回。3回は新型コロナウイルス感染拡大防止のため中止	ボランティアが参加しやすい運営方法を検討し、世代間交流や孤立の防止を始め潜在的な課題を吸い上げることができるような関係づくりを築く場となる。
幅広い世代にふれあいの場を提供し、交流を促進します。	延利用者目標 22,500人/年	延利用者数 14,117人 前年度比 個人利用者 4,082人減 団体利用者 2,694人減	感染防止対策を継続し、安心して利用していただける施設とする。 幅広い世代の利用者が増えるよう更に周知していく。
	利用者の福祉の増進	相談支援 健康相談 2,656人 ボランティア・福祉等相談 96件 地区講座 6グループ667人 ※新型コロナウイルス感染拡大防止のため18回中止 介護予防講座 4講座 471人 ※新型コロナウイルス感染拡大防止のため6回中止 世代間交流 2回 園児DVD交流(妙義保育園) プレゼント交流(洗馬児童館、妙義、宗賀中央保育園) ふれ洗馬ギャラリー 435人 施設・見学 2回 38人	相談しやすい身近な福祉総合相談窓口となるよう、柔軟かつ適切な対応に努める。  高齢者を対象にした講座の受講者が、新しい生活様式を踏まえ施設事業や地域活動に関わることで生きがいづくりに繋がるようにする。

# 令和2年度の事業所事業報告

所属名  
(事業所名)

ふれあいセンター洗馬

## 洗馬児童館(児童館)

利用状況	開所日時	月曜日～金曜日 午前10時～午後6時 土曜日、塩尻市立洗馬小学校の休業日 午前8時30分～午後6時	開所日数	242日
------	------	------------------------------------------------------------	------	------

延利用人数	幼児	小学生	中学生	高校生	一般	計
令和2年	35	33	0	0	35	103
平成31(令和元)年度	469	437	100	0	880	1,886
増減	△434	△404	△100	0	△845	△1,783

## 洗馬児童館(児童クラブ)

利用状況	開所日時	月曜日～金曜日 下校時～午後7時 塩尻市立洗馬小学校の休業日 午前8時～午後7時 土曜日 午前8時～午後6時	開所日数	289日
------	------	-----------------------------------------------------------------------	------	------

延利用人数	1年	2年	3年	4年	5年	6年	計
令和2年度	2,155	3,012	1,202	769	18	371	7,527
平成31(令和元)年度	3,972	3,622	2,355	1,351	981	339	12,620
比較	△1,817	△610	△1,153	△582	△963	32	△5,093

事業所目標	主な事業	実施状況	今後の方向性
安心、安全な子どもの居場所になるよう、放課後の遊び及び生活を支援します。	放課後児童クラブ・放課後キッズクラブ	児童クラブ登録者 100人 キッズクラブ登録者 5人 お楽しみ会 2回 48人 七夕会 1回 42人 福祉教室 2回 59人 避難訓練 2回 56人 クリスマス会 2回 68人 工作教室 7回 285人 お話会 9回 229人	消毒や検温、密を避けるなどの感染予防対策を行い、子どもたちにとって安心して過ごせ、遊びや生活を楽しむことができる場所になるよう環境の整備に努める。また、緊急時には適切な対応ができるようにする。 生活や遊びを通して異年齢の関わりを大切に友だちとの友情を育み、一緒に過ごす楽しさを支援していく。
地域に開かれた施設作りを行い、児童館をPRします。	児童館・放課後児童クラブ 放課後キッズクラブ 地域交流	ふれあいセンター洗馬ギャラリーへの作品展示 48人 ふれあいセンター洗馬利用者への手作りマスクケースプレゼント 100枚 銭太鼓 2回 69人 地元音楽家によるコンサート 1回 38人	外部の方との交流は、新型コロナウイルス感染症予防のため、実施することができない中で、地域の方たちが児童館に興味関心を持っていただけの交流方法を考え、実施する。
児童の遊びと生活の援助と、地域における子育て支援を行います。	児童館 利用者の個別的・集団的指導・育成事業	つどいの広場 3回 18人 自由来館 103人	コロナ禍において、計画しても状況によって実施できないことがあるが、安心安全な生活環境を整え、気軽に利用できる施設であることを地域に広めていく。

# 令和2年度の事業所事業報告

所属名  
(事業所名)

ふれあいセンター広丘

利用状況	開所日時	火曜日～日曜日 祝日の翌日、12/29～1/3除く 午前9時～午後7時	開所日数	273日 (29日間休館)
	登録者数	4,906人(個人)	延利用者数	41,332人(1日151.3人)

(単位:人)

延利用人数	団体	個人	介護予防講座	地区講座	健康運動教室	その他の講座	合計
令和2年度	4,328	22,144	780	711	412	261	28,636
令和元年(平成31)度	5,410	32,731	739	937	1,025	490	41,332
増減	△ 1,082	△ 10,587	41	△ 226	△ 613	△ 229	△ 12,696

事業所目標	主な事業	実施状況	今後の方向性
地域福祉活動の拠点施設として市民の活動を支援します。	北部圏域における地域福祉活動の推進	講座の開催 地域いきいきボランティア活動講座(園芸ボランティア講座) 8回 68人 地域支え合い支援 分会研修会 2回 49人 住民福祉活動の支援 園芸講座からボランティア団体立ち上げに向けた支援 3回	立ち上げ支援を行っていた園芸ボランティア講座の支援が今年度で終了。新たな市民団体支援に取り組む。分会研修会等への参加、支援に継続して取り組む。
		福祉学習の推進 片丘小学校人権学習 3回370人 桔梗小学校福祉学習 4回360人 新型コロナウイルス感染症予防のため、活動を中止した学校へは情報提供・聞き取りを実施 6校 10回	学校と地域をつなぐ活動づくり(高校生のしおりんお助け隊参加など)に取り組む。
	北部圏域福祉ネットワークづくり	北部圏域福祉ネットワークの構築 地域福祉活動の現状について分会への聞き取り調査 8分会 民児協地区会参加 3地区7回	地域の福祉課題を聞き取り、必要な個別支援等につなげるなど、解決に向けた取り組みを支援する。
		担い手の育成(目標3回) 有償サービス事業登録サポーターに対してアンケート、聞き取り調査実施 有償サービス事業説明会・サポーター連絡会 各1回	活動が浸透するように啓発活動を行う。またニーズに応えた活動ができるようサポーターとの連携を強める。

事業所目標	主な事業	実施状況	今後の方向性
地域福祉活動の拠点施設として市民の活動を支援します。	北部圏域福祉ネットワークづくり	しおりんサポーター 利用者登録数(市全域) 64人 サポーター登録数(市全体) 47人 北部圏域 サービス提供回数 53回 活動時間 103時間 新規相談 20件 新規登録 7件	新型コロナウイルス感染症拡大防止対策を行い、利用者とサポーターが不安なく利用できるよう支援する。
	相談支援	個別支援 訪問67件(総合相談49件 有償サービス関係18件) 地域ケア個別会議1件  相談支援 健康相談 2,762件 介護相談 18件 福祉相談 366件	総合相談窓口として知っていただくよう館内表示、地域への呼びかけを行う。
住民同士のふれあいの場を提供し、交流を促進します。	延利用者目標41,000人/年	延利用者数 28,636人 前年度比69% 個人利用者 前年度対比 10,587人減	利用団体との懇談会を実施し、意見交換を行う中で利用者を増やす対策を検討し、取り組む。 職員研修等を行い、利用者対応のスキルアップを図り、利用者増に取り組む。
	すみれ食堂の運営	食事 4,947食 (予約弁当 923食) 前年度比79% 売上 2,455,855円 前年度比81%	弁当販売を増やす。 地元の食材を取り入れ、安心して安価な食事の提供に取り組む。
	高齢者の生きがいづくり 地域福祉活動の促進	生きがい講座 53回 718人 介護予防講座 47回 776人 団体への会場提供 366団体 4,197人	講座では参加者がいきいきと、楽しく生活できるよう日常生活に生かせる内容を取り入れ、介護予防に取り組む。
介護予防・認知症予防の取り組みを進めます。	介護予防・認知症予防の推進	一般向け認知症予防講座の開催(目標 2回 100人) 2回 47人 一般向け介護予防講座の開催(目標 2回 100人) 1回 18人	感染症対策を行い、受講者が安心して参加しやすい環境を作り、介護予防・認知症予防の推進に取り組む。
		運動による介護予防講座の開催(目標 全4期 各10人×3教室) 健康運動教室全4期×3教室 第2期から4期は定員を5人に減らして実施 参加者 延べ412人	講座修了者が継続して運動ができるようフォローアップ研修、自主グループ活動支援を行う。

事業所目標	主な事業	実施状況	今後の方向性
<p>介護予防・認知症予防の取り組みを進めます。</p>	<p>認知症サポートセンター</p>	<p>認知症サポーター養成講座 (目標15回) 開催回数 13回 (志学館高校 3回含) 参加者 147人 認知症介護相談(目標24回) 24回 相談件数20件 オレンジカフェ(目標24回) 19回 参加者100人  市内包括支援センターの認知症地域支援推進員会議 6回</p>	<p>認知症サポートセンターとして、事業を実施する中で啓発、相談、当事者また介護者等の居場所作りに取り組む。</p>

# 令和2年度の事業所事業報告

所属名  
(事業所名)

ふれあいセンター東部

利用状況	開所日時	火曜日～日曜日 祝日の翌日、12/29～1/3除く 午前9時～午後7時	開所日数	273日 (29日間休館)
	登録者数	104人(個人)	延利用者数	11,842人(1日43.4人)

(単位:人)

延利用人数	団体	個人	介護予防講座	地区講座	らだづくり健康教	その他の講座	合計
令和2年度	860	9,604	173		1,044	161	11,842
平成31(令和元)年度	1,429	11,452	234		867	23	14,005
増減	△596	△1,848	△61		177	138	△2,163

事業所目標	主な事業	実施状況	今後の方向性
住民参加の地域福祉活動を推進するための支援をします。	東部圏域における地域福祉活動の推進	<p>講座の開催</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・いきいきボランティア活動講座 0回</li> <li>・東部地区ボランティアお役立ち講座 0回</li> <li>・子ども福祉講座 0回</li> <li>・世代間交流 3回</li> <li>・災害時支え合い講座 1回 24人</li> </ul> <p>住民福祉活動の支援</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・訪問、面談、支援会議69件</li> <li>・福祉相談 512件</li> <li>・ボランティア相談 2件</li> <li>・有償サービス事業の実施サービスの提供 32回</li> <li>活動 56.5時間</li> <li>新規相談 10件</li> </ul> <p>東部圏域社協支部・分会等との連携</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ラジオ体操 3回 38人</li> <li>・ほっと一息しましょう会 3回を予定。新型コロナ対策で中止。</li> <li>・おせち見学 4回</li> </ul> <p>福祉学習の推進</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・塩尻中学校 8回 200人</li> <li>・塩尻東小学校 3回 156人</li> <li>・県教職員研修 1回 15人</li> <li>・啓発活動 4校 8回</li> </ul> <p>新しい生活様式での対応を行った。</p>	<p>センターの役割をより広く知っていただくために、地域に出向くとともに、講座等を開催し、地域福祉について理解を深める。</p> <p>住民の小さな声にも耳を傾け、支部・分会とともに、課題等の解決を図る。</p> <p>地域の社会資源を活用し、より身近なところで福祉について学べるよう支援をしていく。</p> <p>新型コロナウイルス感染症予防対策を行い事業を実施する。</p>
	東部圏域福祉ネットワークづくり	<p>地域生活支援コーディネーター会議 1回</p> <p>東部圏域民児協地区会 7回</p>	<p>第1層生活支援コーディネーター、支所と連携し、地域での支え合い活動の支援を行う。</p>





# 令和2年度の事業所事業報告

所属名  
(事業所名)

訪問ケアセンター

## 訪問介護(介護保険)

利用状況	開所日時	毎日 午前6時～午前0時	開所日数	365日
	登録者数	265人	延利用者数	24,934人(1日68.3人)
	平均実利用者数 (今年度)	142.1人/月	平均実利用者数 (前年度)	151.5人/月

介護度別延利用者数	総合事業			要介護1	要介護2	要介護3	要介護4	要介護5	合計
	事業対象者	要支援1	要支援2						
令和2年度	153	1,655	3,012	3,190	4,978	4,535	3,929	3,482	24,934
平成31(令和元)年度	82	1,859	2,804	2,708	5,717	4,290	4,138	4,287	25,885
増減	71	△204	208	482	△739	245	△209	△805	△951

## 居宅介護等(障害福祉サービス)

利用状況	登録者数	114人	延利用者数	8,550人(1日23.4人)
	平均実利用者数 (今年度)	74.3人/月	平均実利用者数 (前年度)	64.5人/月

区分別延利用者数	居宅介護	行動援護	同行援護	移動支援	合計
令和2年度	7,049	103	282	1,116	8,550
平成31(令和元)年度	5,354	106	274	784	6,518
増減	1,695	△3	8	332	2,032

## 有償サービス(制度外サービス)

利用状況	登録者数	51人	延利用者数	423人(1日1.2人)
	平均実利用者数 (今年度)	35人/月	平均実利用者数 (前年度)	6.2人/月

	延利用者数
令和2年度	423
平成31(令和元)年度	241
増減	182

事業所目標	主な事業	実施状況	今後の方向性
<p>利用者の意向を尊重し、その人らしく住み慣れた地域で暮らすことができるように在宅生活を支援します。</p>	<p>利用者拡大の取り組み</p>	<p>介護保険延利用者数 24,934人 昨年度比96.3% 毎日複数回利用者の終了が多かったこと、新型コロナウイルスの影響の利用控えがあり、延利用者数が前年度比減となった。</p> <p>障がい延利用者数 7,049人 昨年度比132% 新型コロナウイルスの影響で余暇活動が減った時期に、利用方法を変更提案し、コロナ禍における新たなサービスができた。</p> <p>有償延利用者数 423人 昨年度比176% 受診付き添い、買い物等の定期利用が定着し、大幅な利用者増となった。</p> <p>3事業とも困難ケースや緊急依頼も受け、すぐに訪問を開始をした。</p>	<p>利用者の利便性を考え、利用者にあったヘルパーのマッチング。中止時の振替訪問、急な新規依頼も受ける等、ケアマネジャーに選ばれるよう信頼関係を築く。 あわせて職員が過度な働きとにならないよう業務改善を進め、健全経営を行う。</p> <p>ケアマネからの援助内容の相談依頼時は、関係者で連携を取り、利用者の状況と意向を踏まえたサービスを提案していく。</p> <p>新しい生活様式に沿った援助の仕方を学び、取入れている。</p> <p>新型コロナウイルス感染者を出さないように予防策を徹底する。</p>
	<p>福祉に関わる人材の育成</p>	<p>介護職員初任者研修 受講者6人 (社協パート職員雇用1人) お助け隊養成講座担当会議 12回 実習生受入れ 5人 実習に代わっての講師派遣</p>	<p>介護職員初任者研修の受講者増を図るために機会があるごとにPRをしていく。</p>
	<p>多様なニーズに対応するための職員研修と資格取得</p>	<p>ヘルパー研修会 28回 月2回(4,5月は月4回) 事務連絡、利用者の情報共有・相談、事例グループワークおよび介護技術の向上のための研修会を行う。 行動援護研修(リモート)2人 職場内研修 1人 新型コロナウイルス感染予防のため外部研修は中止、不参加</p>	<p>新型コロナウイルス感染者を出さないよう予防策を徹底して行う。 情報提供・共有のために、職員間で報・連・相に努め、信頼関係を築き、接遇及び介護技術の向上を目指す。 登録ヘルパーに訪問時の課題を聞き、その解決に役立つ研修内容を検討・実施し、業務改善に役立てる。</p>

# 令和2年度の事業所事業報告

所属名  
(事業所名)

訪問ケアセンター

## 訪問入浴

利用状況	開所日時	月曜日～金曜日 午前8時30分～午後5時15分	開所日数	255日
	登録者数	59人	延利用者数	1,397人(1日 5.4人)
	平均実利用者数 (今年度)	27.6人/月	平均実利用者数 (前年度)	30.1人/月

介護度別延利用者数	要支援1	要支援2	要介護1	要介護2	要介護3	要介護4	要介護5	障がい	合計
令和2年度	0	35	41	360	164	286	416	95	1,397
平成31(令和元)年度	0	46	87	403	135	324	407	151	1,553
増減	0	△11	△46	△43	29	△38	9	△56	△156

事業所目標	主な事業	実施状況	今後の方向性
介護の質を高め、利用者・家族の満足度の向上に努めます。	関係機関との連携と利用者拡大	延利用者数 1,397人 昨年度比90% ケアマネジャーや相談支援専門員に、訪問利用者の状況報告を行い、情報共有と連携を深めた。 新型コロナウイルスの影響でケアマネジャーの事業所に赴くことが少なかった。	状況報告と情報共有を行い、迅速な対応で利用者拡大を図る。 優先順位を考え業務の効率化を図り、やるべきことを確実に行う。 入浴車2台を使い効率の良いシフトを組む。
	利用者アンケート調査の実施	12月利用者アンケート実施 結果 満足度95.5% 12月ケアマネジャーアンケート実施 結果 満足度96%	利用者ニーズを業務改善に反映していく。 同じ社協内のケアマネと意見交換をする機会等を開く。
	職員研修の実施	交通事故(物損) 1件 ヒヤリハット事例の検討、業務の見直し、定例会 12回 研修会 7回	ヒヤリハット事例の検討、事例収集を行い、事故・苦情ゼロを目標に業務を見直し、月1回の研修を行う。

# 令和2年度の事業所事業報告

所属名  
(事業所名)

訪問ケアセンター

## 訪問看護

利用状況	開所日時	月曜日～金曜日 午前8時30分～午後5時	開所日数	243日
	登録者数	108人	延利用者数	5,644人
	平均実利用者数 (今年度)	72人/月	平均実利用者数 (前年度)	70人/月

介護度別延利用者	要支援1	要支援2	要介護1	要介護2	要介護3	要介護4	要介護5	申請中	医療	合計
令和2年度	251	858	574	402	429	894	1,199	49	988	5,644
平成31(令和元)年度	180	693	478	421	364	1,136	1,153	104	932	5,461
増減	71	165	96	△19	65	△242	46	△55	56	183

事業所目標	主な事業	実施状況	今後の方向性
利用者と家族の話を傾聴し、安心して療養生活が送れるように支援します	機能訓練の実施	延利用者数 5,644人 昨年度比103% 新規利用者の依頼は、ケアマネジャーや医療機関から、1か月に2～4人あり安定していた。リハビリの新規利用者は、8人だった。要支援から要介護に移行するので、導入としての役割が大きい。医療度の高い利用者の維持ができ、介護の体制強化加算が継続できた。要支援は、リハビリの需要が高まり、医療度の高い利用者が減少したことで、体制強化加算は算定できなかった。	事業PR、会議等での情報交換、共有を行い新規紹介をいただく。加算の取得を目指す。  すがのの郷、みどりの郷、田川の郷で機能訓練を行い、新規利用者の計画書はPTが作成。評価は3か月に一度、看護師が実施できるように指導していく。
	実習生の受入れによる人材育成	延4人 信州大学学生実習を行うことで自己の技術の見直しが行えた。人材育成に貢献した。	できる限り実習生を受入れ、自己研鑽を行い、地域の人材育成に貢献する。
	職員研修の実施	外部研修7回 毎朝のミーティングでの申し送り他、連絡事項の確認。 毎月の定例会で気づき・ヒヤリハット事例の検討、研修報告・検討12回、情報の共有・知識と質の向上を図った。 訪問看護運営懇談会に2回出席。情報交換と理学療法士による訪問を行っていることのPRをした。他業種とのケース検討会に1回参加し連携に努めた。 利用者アンケートを行い、満足度94%だった。調査とニーズの掘り起こしを行った。	外部研修 多職種、他ステーションとの懇談会に参加し、情報交換と共有を引き続き行う。 次年度も利用者アンケートを行い、業務改善と知識、技術の向上を図る。

# 令和2年度の事業所事業報告

所属名  
(事業者名)

すがのの郷

## 老人デイサービスセンター(定員25人)

利用状況	開所日時	午前8時30分～午後5時30分	開所日数	359日
	登録者数	90人	延利用者数	6,217人(1日17.3人)
	平均実利用者数 (今年度)	59.1人/月	平均実利用者数 (前年度)	68.4人/月

介護度別延利用者数	要支援1	要支援2	要介護1	要介護2	要介護3	要介護4	要介護5	総合事業	合計
令和2年度	0	0	1,436	1,347	1,583	482	264	1,105	6,217
平成31(令和元)年度	0	0	1,773	1,336	1,398	571	674	1,168	6,920
増減	0	0	△337	11	185	△89	△410	△63	△703

事業所目標	主な事業	実施状況	今後の方向性
利用者の健康・介護状況を把握し、個々に合わせたサービスを提供します。	利用者拡大の取り組み 延利用者数値目標 6,550人/年	延利用者数 年間 6,217人	日ごろの健康観察、感染症対策の徹底を行い安心して通所できる施設を目指すとともに、地域へのPR,ケアマネへのPRを行い新規利用者を獲得していく。
	広報活動の充実	施設たよりの発行 12回 ホームページの更新 12回	利用者やご家族だけでなく、施設の様子を地域の方に知っていただくために、今後も広報活動を継続する。
利用者の希望や趣味、特技を生かしたレクリエーションの実施に加え、生活機能の改善に向けて取り組みます。	身体機能の維持・向上のプログラム提供 延利用者数値目標 1,550人/年	個別機能訓練加算 延1,840人	希望者が増加しているが、アセスメントや評価を丁寧に行い、個別の目標の達成感が得られるようにすることで、さらにリハビリ意欲や効果が高まるようにしていく。
	口腔機能の維持・向上のプログラム提供 延利用者数値目標 840人/年	口腔機能向上加算 要介護 延902人 総合事業 延37人 計 939人	口腔機能の向上については、その重要性が理解されてきているので、効果が分かる丁寧な説明を行い参加者を増やすとともに、職員の研鑽を続け、より良いサービスの提供に努める。

# 令和2年度の事業所事業報告

所属名  
(事業所名)

西部地域包括支援センター

利用状況	開所日時	月曜日～金曜日 午前8時30分～午後5時15分	開所日数	243日
	登録者数	281人	延利用者数	2,887人
	平均実利用者数 (今年度)	240人/月	平均実利用者数 (前年度)	— 人/月

介護度別延利用者数	事業対象者	要支援1			要支援2			総計
令和2年度	事業対象者	直	委託	計	直	委託	計	
	296	431	495	926	498	1,167	1,665	2,887
増減	—	—	—	—	—	—	—	—

事業所目標	主な事業	実施状況	今後の方向性
地域包括ケアシステムの拠点として、高齢者をはじめ地域で暮らす皆さんの暮らしのサポートをします。	<p>介護予防支援事業 延利用者数値目標 720人/年(西部地域包括) 1,560人/年(外部委託)</p> <p>介護予防ケアマネジメント 延利用者数値目標 480人/年(西部地域包括) 240人/年(外部委託)</p>	<p>介護予防支援延利用者数 733人(西部地域包括) 1,395人(外部委託)</p> <p>介護予防ケアマネジメント 延利用者数 472人(西部地域包括) 287人(外部委託)</p>	地域の身近な窓口として相談しやすい雰囲気を作るとともに、相談後のフォローや必要に応じ他機関との連携を図ることで変化にも対応し、地域での暮らしを支える。
西部圏域の最も身近で何でも相談できる窓口となります。	総合相談支援業務 年間目標450件	相談件数 年間 529件	地域の総合相談窓口として認知していただけるようPRし、関係機関と連携して課題解決を図る。
	認知症総合支援	相談会 1回	認知症に対する正しい知識の普及や、オレンジカフェ等に定期的に参加し認知症の人や家族の支援を行う。
	介護・福祉の広報・啓発	ミニケア会議参加 17区 ミニデイ参加 14か所 チラシの配布 29か所	ミニケア会議やミニデイには積極的に参加し、広報・啓発を行う。
	地域交流スペースの提供	檜の実開所日数 243日 来所者数 267人	社協各事業職員が檜の実で対応する場合、専門知識を活かした相談ができることをPRする。
地域の意見を幅広く汲み上げ、地域課題を把握し、顔の見える関係を作り、ネットワークを構築することで課題解決を目指します。	権利擁護業務 包括的・継続的ケアマネジメント支援業務	<p>虐待ケース対応件数 7件</p> <p>困難事例対応件数 24件</p> <p>地域ケア個別会議 1件</p>	定期的にモニタリングすることで状況を把握し、関係機関や地域と連携して課題解決を図る。

# 令和2年度の事業所事業報告

所属名  
(事業所名)

田川の郷

## 老人福祉センター

利用状況	開所日時	月曜日～金曜日 午前9時～午後4時	開所日数	222日
------	------	----------------------	------	------

延利用者数	団体	個人	講座	合計
令和2年度	0	7,912	0	7,912
平成31(令和元)年度	0	10,557	0	10,557
増減	0	△2,645	0	△2,645

事業所目標	主な事業	実施状況	今後の方向性
福祉避難所として災害時に役立つ拠点施設となります	地域支援	<ul style="list-style-type: none"> <li>・地域の防災訓練は中止となった。</li> <li>・地域防災会議に出席した。新型コロナウイルスに対応するための収容人数等再検証を行い、施設内に福祉避難所開設時の見取り図等掲示や啓発を行った。</li> <li>・自主講座 延58人</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・引き続き、地域防災会議等に参加することで情報を共有し、災害等に備えた準備・支援を行う。</li> <li>・避難所として感染症に対応ができる職員の育成と訓練をする。</li> </ul>
住み慣れた地域で、こころの拠り所となる居場所作り・集まる場所となります。	地域との交流事業	<ul style="list-style-type: none"> <li>・田川の郷あったかまつりは新型コロナウイルス感染症予防対策のため中止とした。</li> <li>・施設内の各所定時消毒・窓開け換気を確実に行った。</li> <li>・来館者へは感染症予防対策を何度も説明し理解を求めた。</li> <li>・教養娯楽室を待合室として開放した。</li> <li>・施設内を職員が巡回し3密になっていないか確認した。</li> <li>・カラオケや囲碁将棋の利用は中止した。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・新型コロナウイルス感染予防対策を繰り返しアナウンスし、利用者と共に確実に実行できるようにする。</li> <li>・短時間での居場所や集える施設とする。</li> </ul>



# 令和2年度の事業所事業中間報告

所属名  
(事業所名)

田川の郷

## 老人デイサービスセンター(定員20人)

利用状況	開所日時	午前8時30分～午後5時30分	開所日数	357日
	登録者数	59人	延利用者数	4,938人(1日13.8人)
	平均実利用者数 (今年度)	48.0人/月	平均実利用者数 (前年度)	50.9人/月

介護度別延利用者数	要支援1	要支援2	要介護1	要介護2	要介護3	要介護4	要介護5	総合事業	合計
令和2年度	0	0	1,107	1,619	578	478	468	688	4,938
平成31(令和元)年度	0	0	1,205	1,770	245	777	312	960	5,269
増減	0	0	△98	△151	333	△299	156	△272	△331

事業所目標	主な事業	実施状況	今後の方向性
利用者の思いに寄り添いその人らしさを尊重した介護サービスを提供します。	利用者数値目標6,000人/年	延べ利用者数 4,938人	新型コロナウイルス感染症への感染が心配で利用を控えている方へ、対策状況の説明をし利用控えを減らし利用者を増やしていく。 医療的処置や一般浴槽での入浴が難しい方への特殊浴槽を利用した入浴など施設の特徴をさらにPRし、退院直後の利用者を獲得していく。そのため連携ができる医療機関を増やしていく。
	口腔機能向上サービス・個別機能訓練の実施	口腔機能向上加算 看護職が歯科衛生士と協同したアセスメントを基に、介護職がメインで動けるように技術等研修を行い、要介護者では270回実施した。総合事業では58回実施した。 個別機能訓練加算 看護職主体となり、48回実施した。 複数実施加算 総合事業で口腔機能向上と運動器機能向上を両方行う加算であるため、看護職、介護職共同で7件行った。	新規利用者へは確実に加算内容の有効性を伝えるセールスができる職員を育てる。現在、加算対象のサービスを利用していない利用者へも、加算サービスを行いたくなるようなパフォーマンスも取り入れた訓練等を行い視覚へも訴える。 総合事業利用者へは単独ではなく口腔機能向上サービスと運動器機能向上サービスの複数実施促進への移行を行う。



事業所目標	主な事業	実施状況	今後の方向性
<p>利用者の思いに寄り添いその人らしさを尊重した介護サービスを提供します。</p>	<p>ボランティア・実習生の受入れ</p>	<p>実習生 2団体延2人 ボランティア 4団体延192人 芸能ボランティア 0人</p>	<p>実習生及びボランティアには、来館時の体調調査、検温、指手消毒、うがいの実行、マスク着用を確実に行った。今後も現在の感染対策を継続しながら、状況を勘案し受け入れの可否を判断していく。芸能ボランティアは、年間を通して受け入れなかった。今年度は代替として職員が芸能を披露して楽しんでいただいたが、今後は状況を勘案しながら受け入れの可否を判断する。</p>
<p>住民に、交流・相談・学びの場を提供することにより、地域に根付いた信頼される施設をつくれます。</p>	<p>交流会の実施</p>	<p>吉田地区の祭典は中止であった。 田川の郷あったかまつり、家庭介護支援のための介護者交流会は、新型コロナウイルス感染予防のため中止とした。 介護者交流会は代替として介護上での悩み相談として常時相談を受け付けることを再度周知した。</p>	<p>地域、学校等交流できない状況が続いている。今後については状況を勘案しながら実施可否を関係機関と情報共有しながら判断していく。 家庭介護教室・介護者交流会については、アンケートでの回答が開催の可否が半々であるため、今後の情勢に合わせた実施方法を考える。</p>

# 令和2年度の事業所事業報告

所属名  
(事業所名)

みどりの郷

## 老人デイサービスセンター(定員25人)

利用状況	開所日時	午前8時30分～午後5時30分	開所日数	359日
	登録者数	79人	延利用者数	6,296人(1日17.54人)
	平均実利用者数 (今年度)	60.75人/月	平均実利用者数 (前年度)	75.2人/月

介護度別延利用者数	要支援1	要支援2	要介護1	要介護2	要介護3	要介護4	要介護5	総合事業	合計
令和2年度	0	0	1,545	1,890	355	517	686	1,303	6,296
平成31(令和元)年度	0	0	1,907	1,604	649	900	803	1,844	7,707
増減	0	0	△362	286	△294	△383	△117	△541	△1,411

事業所目標	主な事業	実施状況	今後の方向性
利用者の要望に沿って、個々のニーズに合わせた介護サービスを提供します。	利用者拡大の取り組み 延利用者数値目標 8,050人/年(定員30名で予定した延利用者数になっています)	<ul style="list-style-type: none"> <li>延利用者数 6,296人</li> <li>介護報酬等加算、職員配置等を考慮し、運営形態の変更することに伴って定員を30人から25人に変更した。</li> <li>口腔ケアの必要性を利用者やご家族に説明し、口腔内の清潔に力を入れた。また、食事形態、嚥下についても着目し、栄養状態の改善に努めた。</li> <li>口腔機能向上加算 要介護 延 471人 総合事業 延 55人 計 526人</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>居宅介護支援事業所へのPRを行う。</li> <li>空き情報をこまめに知らせながら、施設の活動状況等含めて事業周知に努める。</li> <li>口腔機能向上について希望される方が増えている。口腔機能の向上が身体機能の向上に効果的であることを実感できる方法を試行する。</li> <li>職員による口腔ケアの手技について研鑽を続け、より良いサービスの提供に努める。</li> </ul>
特技や趣味を生かした活動により生活機能が向上するようグループ活動、余暇活動を提供します。	総合事業の実施 選択のできるレクリエーションメニューの実施	<ul style="list-style-type: none"> <li>洗濯物たたみ、枕カバー付け等、生活に関する活動の提供に努めた。</li> <li>縫い物等、特技を生かした活動の提供に努めた。</li> <li>季節の行事の実施 お花見ドライブ 避難訓練(福祉施設合同) 節分 ひな祭り</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>個別に趣味や取り組んでみたいこと等、情報収集を行い、個々の希望に合わせ余暇活動の充実に努める。</li> </ul>
機能訓練を行い、利用者の身体機能の維持、向上を目指します。	機能訓練の実施	<ul style="list-style-type: none"> <li>運動週間の実施 24回</li> <li>理学療法士、看護師、他機関と連携を図り、希望する利用者に対し個別機能訓練を実施し、身体機能の維持、向上に努めた。</li> <li>個別機能訓練加算 延 275人</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>個別機能訓練に関するアンケートを実施し、希望者を募る。</li> <li>個別の時間を通して、心身のリラックス効果も含めて、楽しく取り組める内容を工夫する。</li> </ul>

# 令和2年度の事業所事業報告

所属名  
(事業所名)

つくしの郷

## 老人デイサービスセンター(認知症対応型 定員12人)

利用状況	開所日時	午前8時30分～午後5時30分	開所日数	358日
	登録者数	41人	延利用者数	3,324人(1日9.3人)
	平均実利用者数 (今年度)	31.2人/月	平均実利用者数 (前年度)	31.5人/月

介護度別延利用者数	要支援1	要支援2	要介護1	要介護2	要介護3	要介護4	要介護5	未定	合計	宿泊
令和2年度		9	897	392	604	1247	167	8	3,324	328
平成31(令和元)年度	0	32	617	798	707	844	310	0	3,308	300
増減	0	△23	280	△406	△103	403	△143	8	16	28

事業所目標	主な事業	実施状況	今後の方向性
認知症を抱える方や、そのご家族が地域で安心して暮らすことができる支えとなるために、安心・安定した運営を実施します。	延利用者数値目標 3,400人/年	延利用者数 通所 3,324人 宿泊 328人	利用のないケアマネへパンフレットを持参しながらPRする。 包括と連携をとり、要支援の利用者を獲得する。
	運営推進会議の実施	2回開催 利用状況の報告及び要望を伺った	いただいた意見を参考に、利用者や家族にとって、安心して利用できる施設になるよう、職員へ周知し、改善する。
利用者一人ひとりの理解を深め、利用者主体のケアを実施します。	身体機能及び口腔機能の維持・向上のためのプログラムの実施	個別機能訓練 3,309回実施 口腔機能向上サービス 447回実施	個別、または、少人数で行えるプログラムを作成・実施する。 口腔衛生について、職員研修を実施し、サービスの向上を図る。
認知症予防及び閉じこもり予防のため、定期的に通所したくなるような、おでかけサロンを実施します。	つくしのおでかけサロン	おでかけサロン実施回数 35回 実利用者数 5人 延利用者数 141人 ※コロナウイルスのため1回は中止。	利用者主体のプログラムを提供する。 ふれあいセンター、包括支援センターと連携し、サロンの周知をさらに進める。

# 令和2年度の事業所事業報告

所属名  
(事業所名)

つくしの郷

## 認知症予防推進

利用状況	開所日時	月曜日～金曜日 午前8時30分～午後5時15分	開所日数	358日
------	------	----------------------------	------	------

事業所目標	主な事業	実施状況	今後の方向性
認知症の理解を深め、地域ぐるみで支える体制づくりを進めます。	やすらぎ支援員の活動	派遣回数 78回 登録者数 8人 支援員数 5人 新型コロナウイルス感染予防のため、市と協議しながら派遣した。	介護者の負担軽減のため、家族や本人の話し相手となり、心理的サポートをする。また、家族や関係機関への情報提供を行う。
	認知症の啓発、人材育成 認知症サポーター養成講座	認知症サポーター養成講座 6回 105人	養成講座で認知症の理解を深め、地域を支える体制づくり(人材育成)を各事業所の職員から地域・企業へPR・発信する。また、新型コロナウイルス感染症予防に努めながら開催していく。

# 令和2年度の事業所事業報告

所属名  
(事業所名)

居宅介護支援事業所

利用状況	開所日時	月曜日～金曜日 午前8時30分～午後5時15分	開所日数	243日
	登録者数	320人	延利用者数	3,445人
	平均実利用者数 (今年度)	287人/月	平均実利用者数 (前年度)	297人/月

介護度別延利用者数	要支援1	要支援2	要介護1	要介護2	要介護3	要介護4	要介護5	合計
令和2年度	367	665	872	659	403	293	186	3,445
平成31(令和元)年度	320	623	924	714	486	298	200	3,565
増減	47	42	△ 52	△ 55	△ 83	△ 5	△ 14	△ 120

事業所目標	主な事業	実施状況	今後の方向性
利用者・家族の意向を尊重し、自立支援の視点を大切に、様々な社会資源の活用、多職種との連携により在宅生活が継続できるよう支援します。	利用者・家族からの意見聴取	利用者アンケート1月に実施183件の回答を得る。	職員の接遇、資質、事業所の対応等についてアンケート実施。いただいた意見を検討し、より良い対応ができるよう取り組む。
	関係機関との連携の推進	行政機関や、医療、福祉等の関係者会議に参加し、情報共有し連携を図った。 ・入退院時の連携（110件）	地域包括支援センター、医療機関、サービス事業者等の会議への出席や情報共有を行い、利用者の在宅生活を支援する。
質の高いケアマネジメントを提供できる体制を維持することにより、特定事業所加算が継続できる事業所となります。	事業所・職員の資質の向上	<内部研修> ・スーパービジョンを2回実施する。難病事例、虐待事例、成年後見人がついた事例等 <外部研修> ・ケアマネ勉強会10回参加 ・他事業所との事例検討会6回参加 ・介護と医療ネットワーク研修1回参加(感染症対策) <職場内会議> ・週1回実施 困難事例、障がい者支援、決算書の見方、介護保険の各事業所の加算、ハラスメント対策、福祉用具研修 <実務者研修の協力> 介護支援専門員実務研修生1人受入	職場内会議を定期的に行い、事例検討、内部研修により情報の共有を図る。また、法令について研鑽を積み、職員の資質向上を図る。
新規利用者の受け入れに向け、事業所のPRを積極的に行います。	広報啓発 介護・福祉の啓発	<啓発事業> ・櫛の実出張所相談12回 ・ホームページ更新(ケアマネ便りの発行、講座周知等)13回 ・介護講座1回実施(ポジショニング)	地域包括支援センター、各サービス事業所や地域福祉事業等に事業所のPRを行う。櫛の実出張所での相談を継続する。

# 令和2年度の事業所事業報告

所属名  
(事業所名)

すみれの丘

## 地域活動支援センター

利用状況	開所日時	月曜日～金曜日 午前8時30分～午後5時15分	開所日数	243日
	創作講座延利用者数	509人(前年度848人)	障害者相談延利用者数	459人(前年度203人)
	居場所参加者数	86人(前年度 60人)	ことばの教室延利用者数	59人(今年度新)

事業所目標	主な事業	実施状況	今後の方向性
障がい者又はその家族が抱えている問題や思いが、気軽に寄せられる窓口となり、他機関と連携しながら地域で安心して暮らすことができるよう支援します。	障害者相談 (障害福祉サービスの利用、就労、余暇の過ごし方、家族のことなど生活全般についての相談に応じ、問題解決の道を一緒に考えます。)	相談・訪問等件数 459件 居場所の提供、交流会開催数 15回	相談者が安心して相談できる時間や場所を確保する。 交流事業への参加を呼びかけ、参加者が安心して参加できる機会をつくる。
	ことばの教室 (ことばの発達等に気がかりな子どもたちに対し、言語聴覚士が個別に対応します。)	実施回数 12回 延利用者数 59人	令和2年度で終了。 令和3年度はあすなろ園へ移行

## 生活介護事業所すみれの丘 (定員20人)

利用状況	開所日時	月曜日～金曜日 午前8時30分～午後5時15分	開所日数	243日
	登録者数	20人	延利用者数	3,231人(1日13.3人)
	平均実利用者数 (今年度)	19.3人/月	平均実利用者数 (前年度)	22.3人/月

	延利用者数
令和2年度	3,231
平成31(令和元)年度	3,714
増減	△483

事業所目標	主な事業	実施状況	今後の方向性
利用者と家族が安心して、生き生きと楽しく過ごすことができる場所にします。	健康管理	体重測定 12回 歯科指導 12回	利用者の体調把握と管理に努め、他機関との連携を図る。
希望者に入浴サービスを安全に提供することで、清潔保持と家族への負担軽減を図ります。	入浴サービス	80.3回/月 (前年度80.6回/月)	家族への負担を軽減し、清潔を保てるよう継続する。
個人目標にそった活動を実施します。	野外活動	散歩(可能な限り毎日) 外出 2回	一人ひとりの目標に沿った社会体験を実施、それぞれの活動を支援していく。
	施設内行事	食事会 4回 誕生日会 年11回	

## 児童発達支援事業所あすなろ園（定員10人）

利用状況	開所日時	月曜日～金曜日 午前8時30分～午後5時15分	開所日数	243日
	児童発達支援	登録者数 30人	延利用者数 873人	(1日 3.6人)
	放課後等デイサービス	登録者数 15人	延利用者数 921人	(1日 3.8人)
	合計	49人	1,794人	(1日 7.4人)
	平均実利用者数 (今年度)	41人/月	平均実利用者数 (前年度)	46.3人/月

	延利用者数
令和2年度	1,794
平成31(令和元)年度	2,149
増減	△355

事業所目標	主な事業	実施状況	今後の方向性
一人ひとりの成長に合わせた支援・相談を行います。	集団療育、個別支援	児童発達支援 作業療法 68人 言語訓練 151人 理学療法 18人	日々の生活が向上するよう、関係機関と連携して訓練を行う。
		放課後等デイサービス 作業療法 37人	希望者にはできるだけ個別訓練を実施し、個別訓練内容を集団訓練にも取り入れていく。

## 指定相談支援

利用状況	開所日時	月曜日～金曜日 午前9時～午後5時	開所日数	243日
	指定特定相談	登録者数 128人	延利用者数 472人	(1日 1.9人)
	障害児相談	登録者数 62人	延利用者数 212人	(1日 0.9人)
	合計	190人	684人	(1日 2.8人)

	延利用者数
令和2年度	684
平成31(令和元)年度	607
増減	77

事業所目標	主な事業	実施状況	今後の方向性
地域で安心した生活ができるよう他の機関や支援者と連携して、利用者の変化に的確に対応します。	サービス利用計画の作成 他機関との連携	計画作成 延651件 連絡調整 4,769回 支援会議 336回 訪問・面談 1,156回 ケアマネ連絡会 10回 相談支援専門員会議 13回 所内打合せ 週1回以上	他機関と連携し、地域の中で安心してその人らしい生活ができる、生活の質の向上につながる支援をする。



## 就労継続支援B型（定員25人）

利用状況	開所日時	月曜日～金曜日 午前8時30分～午後5時15分	開所日数	243日
	登録者数	26人	延利用者数	5,865人(1日 24.5人)
	平均実利用者数 (今年度)	24.1人/月	平均実利用者数 (前年度)	31.2人/月

	延利用者数
令和2年度	5,865
平成31(令和元)年度	6,330
増減	△465

事業所目標	主な事業	実施状況	今後の方向性
一人ひとりの気持ちを受けとめ、その方に合った支援を行います。	個別支援計画の作成	<ul style="list-style-type: none"> <li>計画相談のサービス等利用計画書をもとに、就労支援事業所としての本人の意向に沿った支援計画書を作成。</li> <li>受託元から障害者雇用の話があり、一般雇用につなげた。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>それぞれなにを目標にするのか、職員間の意識の統一を図り、目標の達成を目指す。</li> <li>就労定着支援を行っていく。</li> <li>一般就労への取り組みを継続していく。</li> </ul>
働くことの意義や喜びを習得できるよう支援します。	塩尻市農福連携事業への参加	<ul style="list-style-type: none"> <li>○施設外就労の新規獲得</li> <li>・塩尻市農福連携…レタス・ネギ畑の草取りを行い個別の特性や適応できる力を知っていた。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>作業を通じて地域へ出向く機会を増やし、次年度も継続し依頼を受けて、意義や喜びにつなげていく。</li> <li>受託作業の技術向上と安定した収入で工賃の安定につなげる。</li> </ul>
	受託生産活動の実施	<ul style="list-style-type: none"> <li>○施設内受託作業</li> <li>・マスクの封入</li> <li>・箱折(ワイン、百貨店お中元・お歳暮贈答用の箱)</li> <li>○施設外就労の新規獲得</li> <li>・デイサービス浴室清掃</li> <li>月～金曜日</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>感染症長期化により受託量、期間ともに継続できるよう受託先を複数獲得する。</li> </ul>
障がい者への理解が深まるよう、地域へ出て交流の機会を作ります。	余暇支援、地域交流活動を行う。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・地域のお祭り等地域交流活動の場はなかった。</li> <li>・リフレッシュデイに代わる、テイクアウト昼食会の実施。</li> <li>・ネットワークを通じて毎月1回の販売会の機会を得た。</li> <li>・出向いて事業の周知ができなかった。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>感染症の状況に合わせて、感染症対策を充分行い外出等に代わる活動を設けていく。</li> <li>今後も販売する曜日の検討は必要であるが、販売会の定着を行う。</li> <li>ホームページを活用し、日々の様子を掲載し周知を図る。また、自主製品の受注製造販売により自主製品の売上げUPに取り組む。</li> </ul>
	ボランティア・実習生の受け入れ	<ul style="list-style-type: none"> <li>○実習生</li> <li>・松本短期大学</li> <li>春…2名 年度末…1名</li> <li>・松本寿台養護学校…3名</li> <li>・松本養護学校…1名</li> <li>・伊那養護学校…1名</li> <li>○体験利用者 1名</li> <li>○ボランティア(小学生、中学生)2名</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・感染予防対策を行いながら積極的に受け入れることで、人材の育成確保、利用者確保を目指す。</li> <li>・養護学校1年生は次年度へのステップ、何を目標にするか、2年生は移行に向けての目標へ切り替え、3年生は利用へ向けての実習となるよう関わっていく。</li> </ul>



# 令和2年度の事業所事業報告

所属名  
(事業所名)

そよ風の家

## 就労継続支援B型(定員20人)

利用状況	開所日時	月曜日～金曜日 午前9時～午後4時	開所日数	243日
	登録者数	40人	延利用者数	4,655人(1日 19.2人)
	平均実利用者数 (今年度)	36.6人/月	平均実利用者数 (前年度)	35.5人/月

	延利用者数
令和2年度	4,655人
平成31(令和元)年度	4,403人
増減	252

事業所目標	主な事業	実施状況	今後の方向性
利用者の思いや希望を大切にし、安心して利用できる環境づくりに努めます。	生活支援 各種行事の開催 地域との交流事業	<ul style="list-style-type: none"> <li>『はなしてみるかい』開催 12回 参加 延べ52名</li> <li>すみれそよ風まつり 中止</li> <li>長野県障がい者文化芸術祭 作品を出展 6人</li> <li>テイクアウト(すし、ピザ、ケーキ) 3回</li> <li>販売会 31回</li> <li>えんてらすマルシェ</li> <li>ふくふくマーケット</li> <li>ハッピーウーマンフェスタ</li> <li>松本養護学校 他</li> </ul>	新型コロナウイルス感染症流行により、ほとんどの行事が中止となってしまったため、できる取り組みとして、メンバーからの要望があった、すし、ピザ、ケーキのテイクアウトを行った。また、県芸術祭に6人ものメンバーが作品を出展することができた。今後も状況にあわせてこうした取り組みを継続していく。
	個別支援計画の作成	利用者とともに見直しを行い、個々の状況に合わせて、より具体的な取り組み表現とした。	利用者の希望する生活及び課題等の内容に基づき、適切な支援内容を検討する。
	ボランティア・実習生の受入れ	実習生(松本短期大学) 4人 ボランティア(大学生) 2人 延べ15回 実習生(松本養護学校高等部) 1名 体験利用者受入れ 5人 新規利用者受入れ 6人	新型コロナウイルスの影響で大学が休講、実習先が見つからないなどの理由から、多くの学生がボランティア、実習に来所。松本養護学校の生徒が卒業後の進路も考えつつ、実習に来所。基本的な感染症対策を行い、受け入れを継続していく。
	他機関との連携	福祉課・保健師・病院・就業支援ワーカー・ボイス・成年後見支援センター等と情報交換及び報告を行い、利用者の課題解決に向けて検討を行った。	関係機関との連携する中で、長期休養していた利用者が医療とつながり、再度、通所できるようになった。外部講師(ボイス)をお願いして職員の資質向上を目的に、ケース検討会を4回実施した。引き続き、関係機関と連携することで利用者の課題解決に取り組んでいく。

事業所目標	主な事業	実施状況	今後の方向性
作業を通して社会参加を促し生きがいや達成感を感じることができるよう支援します。	生産活動の実施	施設外作業 清掃作業 4か所 除草作業 3件 市役所花壇整備、古紙回収	新型コロナウイルス感染症流行により、4月～7月は箱折りなどの作業が減ってしまった。その間、自主製品(マスクなど)や県社協からの防護服の作成に取り組んだ。
		施設内作業 企業受託 7件 自主製品の製造 (マスク、マスクケースなど現状のニーズにあった製品をメインに作成) 農作業(ジャガイモ、ネギ、白菜、大根) 印刷	8月以降は、作業量も戻り、防護服の作成なども重なってオーバーワーク気味となったが、多くのメンバーがやりがいを感じて取り組んだ。後半についても一定の作業量の確保ができた。課題としては、引き続き工賃向上を目指すために室内でできる作業(内職など)の確保を行っていく。
		クッキーハウス作業 地区からの注文 6地区 大門七区、高出2区、高出4区、北熊井区、上組区、芦ノ田区	新型コロナウイルス感染症予防のため、ほとんどの販売会が中止となったが、多くの地区から敬老会等のクッキーの注文をいただき、今までで、最高の売り上げを記録した。また、クッキーのラベルに利用者が描いたアマビエを採用し好評をいただいた。今後についても、支所などを介して地区へのPRや季節限定商品の販売やギフトセットなどの工夫を行い販路拡大を目指していく。

# 令和2年度の事業所事業報告

所属名  
(事業所名)

みどりが丘

## 就労継続支援B型(定員20人)

利用状況	開所日時	月曜日～金曜日 午前9時～午後4時	開所日数	246日
	登録者数	28人	延利用者数	4,005人(1日16.5人)
	平均実利用者数	24.6人	(前年度)	16.3人

	延利用者数
令和2年度	4,005
平成31(令和元)年度	4,003
増減	2

事業所目標	主な事業	実施状況	今後の方向性
利用者を尊重し、可能性をひきだす支援をします。	生活支援 各種行事の開催 地域との交流事業	感染対策を整えたうえで、通所者を迎えた。作業スペースを拡大し、作業・食事や休憩の時間に部屋ドアを開放し、部屋の喚起を行った。利用者のニーズや課題を伺いきめ細かな対応をした。	感染症対策が習慣になってきている。祭りや交流等がないところを楽しみを作る時間として充てる。
	他機関との連携	病院からの紹介で退院を控えている患者の相談が相次いだ。利用者が自分の病気・障がいを理解し、退院後グループホーム等で暮らす方が5人あった。医師や家族・グループホームの支援者などと情報共有し、生活の安定と通所の継続を図った。就職を希望されていた方の移行が決まり継続されている。連絡を取り、課題やニーズを伺っている。	一般就労への取り組み、入院中の精神障がいのある人への訪問と家族支援、利用者確保に向けて相談機関に定期的に訪問、地域とのネットワークづくり等を進めていく。
	個別支援計画の作成	家族から離れ、初めてサービスを使う方が多く、支援者の見守りを伝えた。初めて工賃をもらいお金の使い方を他機関と相談する方も有り、生活に楽しみが持てる計画を作成した。 28人(新規利用者7人)	利用者にとって何を目標とするか職員の意識統一と、効果的なサービスを提供するための支援内容を計画化する。

